

科目名	コーディネート実習 I				
担当教員	清水 彩子		実務授業の有無	○	
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	空間の表現・伝達に必須である製図、パースの知識・技術を、学ぶことでプレゼンテーションの必要性和技法を理解し、コンペ作品等に対応する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図、パースの基礎を中心に見せ方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則したプレゼンツールの進め方の基本を理解する。 4. コンペに応募し作品を作成、評価、解説行う				
学習目標 (到達目標)	①コーディネーター2次試験対策 ②実務で使えるプレゼンテーション能力をつける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①はじめてのインテリア製図、②PM/パッド、③色鉛筆、④コピックマーカー、⑤ペンペン、⑥製図用シャープペン、⑥マスキングテープ等				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	図面の基礎 ①インテリア平面図、 ②展開図		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の演習。図面の読み方の基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
2	①パース、 ②アイソメ、 ③アクソメ、 ④クイックパースの技術		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の演習。レイアウトやパースの基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
3	①プレゼンテーション技術		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の演習と発表。 プレゼンテーションの手順、表現の基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業態度、熱意、作品への取り組みを評価  授業態度50% 作品の仕上がり30% プレゼンテーション20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			個性は生かしつつ、実務で使える技術を楽しんで習得していくことを目標としている。 インテリアにおいてパースや図面でプレゼンすることは重要な要素のひとつです。各課題の基礎をしっかりと身につけて空間演出を習得する段階的に、演習課題等を行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、個別指導を含め、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 店舗、住宅等の内装業務全般に20年携わる					

科目名	コーディネート実習 I				
担当教員	清水 彩子		実務授業の有無	○	
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築とデザインの基礎、インテリア・住宅空間・実務に関する基本などを学び、講義を通してインテリアコーディネーター資格の取得を目指す。また、2次試験対策のため、ロールプレイングやプレゼンテーションなど実技対策も強化する。 1. 建築、デザイン他インテリア関連の諸知識、実務ををしっかりと理解する。 2. コーディネーターとしての実務、プレゼン手法を理解する。 3. インテリアコーディネーター資格試験対策。 4. 講義→練習問題→解答→過去問題→解答→解説を繰り返すことで習熟度を上げる。				
学習目標 (到達目標)	①資格取得をめざす ②ロールプレイングから、実務に対応できる知識を習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①はじめてのインテリア製図、 ②過去問題集、2次試験対策問題集				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	資格試験対策-1 ①1次試験テキストの重要章の確認		方法：2次試験、各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、演習問題を行い、知識の定着を図る。各分野とも、次週に定着確認テストを行う。 合格ラインの点数になるように、弱点等は「繰り返し行い、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習		
2	資格試験対策-2 ①過去問題、予想問題の繰り返し ②時間配分、苦手分野への対策		方法：2次試験、各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、演習問題を行い、知識の定着を図る。各分野とも、次週に定着確認テストを行う。 合格ラインの点数になるように、弱点等は「繰り返し行い、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習		
3	資格試験対策-3 ①プレゼンテーション技術の習得 ②ロールプレイングを行い、仕事の楽しさ、多様さを学ぶ		方法：2次試験、各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、実務の演習課題を行い、ロールプレイングで修練する。各分野とも、次週に定着確認テストを行う。 合格ラインの点数になるように、弱点等は繰り返し行い、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習		
	*2次試験受験者と受験外学生、バランスをとって全員のモチベーションを保つ授業内容と評価を意識する				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業での態度、努力を重視。後期はテストの点数も評価。  授業態度50% テスト結果30% プレゼンテーション10 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			後半はロールプレイングで楽しく、実務直結の授業を。資格取得を目指す。しっかりと準備して意識づけを行い、授業に臨みませる。インテリアコーディネーター学科試験でも出てくる分野を、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 店舗、住宅等の内装業務全般に20年携わる					